

牛乳パック、簡単に裁断

「パテントコンテスト」特別賞

高校志生を対象とした2021年度の「パテント特許コンテスト」(文部科学省、特許庁など主催)で、秋田工業高校(秋田市)の女子生徒3人が考案した「牛乳パック切断装置」が、特別賞に輝いた。小学生の頃、飲み終わったパックを洗ったり、手で裂いたりするのに苦労した思い出が開発のヒントになった。県内の生徒、学生が特別賞を受賞するのは初めて。

装置を作ったのは武田瑠陽(りゅう)さん(1年)、阿部成乃(なる)さん(2年)、鎌田妃翔(ひ翔)さん(同)。ロボットな



牛乳パックを裁断するアイデアでWIPPO賞に輝いた。(左から)鎌田さん、武田さん、阿部さん

秋田工高3人 装置考案、特許申請

どを作る「メカクラ」の女子部員だ。コンテストは知的財産権への関心を高めようとする02年度から開かれてい

る。今回は788件の応募があり、30件が優秀賞に選ばれ、特許の出願支援を受ける資格を得た。

そのうち6件が特別賞に選ばれ、3人の作った装置は特別賞の一つ「WIPPO(世界的所有権機関、本部スイス・ジュネーブ賞)を受賞した。同賞は「持続可能な開発目標(SDG「S」)を達成できるアイ

アが対象で、21年度創設された。ほかの2人も、小学生の力でパックを裂くのは大変だったことを覚えていた。

装置は、牛乳パックをセッとしてレバーを下げると、3枚の刃で裁断する仕組み。レバーにてこの原理を使っているため、強い力は必要ないという。

秋田市の市立小中学校では、給食にパック入りの牛乳が出る。飲み終わったパックは、洗って業者に回収してもらった。リーダーの武田さんは小学生の頃、パックを洗って手で裂くとして、残っていた牛乳で手を汚したことがあった。ほかの2人も、小学生の力でパックを裂くのは大変だったことを覚えていた。

苦労が開発のヒントに

表彰式は4日、都内で行われる。(盛根央)



牛乳パックをセッとして使用する際、レバーを下げて、セッとしたパックを裁断する(左)画像の一部を加工しています

